



Chance for Children

公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン

ANNUAL REPORT

2020 2021

年次報告書

多様な学びを
すべての子どもに



法人設立から10年。温かいご支援ありがとうございます。

昨年度も活動を支えていただき、ありがとうございました。CFCは、2021年6月に法人設立から10年を迎えました。現在、10年間の活動をまとめたレポートの作成を進めており、年内には皆さまのもとにお届けする予定です。2020年度を振り返ると、新型コロナの影響で子どもたちを取りまく環境が大きく変化し、これまで以上に支援の必要性が高まっていると感じます。子どもたちが学び続けられるよう、全力で活動に取り組んでまいります。今後とも応援のほど、よろしくお願いいたします。



共同代表
今井 悠介
(いまい・ゆうすけ)



共同代表
奥野 慧
(おくの・さとし)

Topics | 2020 2020年度の総括

1 新型コロナ緊急支援としてスタディクーポンの臨時給付をしました

これまでの東北・関西での支援(計439名)に加え、新型コロナ緊急支援事業として、経済困窮世帯の子ども157名にスタディクーポンの臨時給付をしました。この他にも、Wi-Fiルーター・タブレット等の通信端末の無償貸与、大学生ボランティアによる相談支援を行いました。当緊急支援事業は、2021年度も継続しています。詳細は、特集記事をご覧ください。



2 東日本大震災から10年。今後も東北での活動を継続します

2021年3月11日で東日本大震災から10年が経ちました。CFCは、3.11を契機に法人を設立してから、10年で延べ3,000人以上の東北の子どもたちにスタディクーポンを届けました。一方で、10年が経った今もなお、震災の影響が色濃く残っており、困難な状況が長期化することで、課題も複雑化しています。CFCは、今後もスタッフ・大学生ボランティア一同、力を合わせて東北での活動を継続していきます。



3 沖縄県初・那覇市がスタディクーポンを政策化しました

大阪市、渋谷区、千葉市、佐賀県上峰町に続き、2020年度は、沖縄県那覇市がスタディクーポン事業を政策導入しました。CFCは、現地の「みらいファンド沖縄」の協力のもと、当事業を運営しています。また、2021年度からは、東京都国立市が同事業を政策導入しました。これで、CFCが自治体と共同運営するスタディクーポン事業は、6事業になります。



Messages from the Children

子どもたちの声

2020年度は皆さまからのご寄付をもとに

596名の子どもたちにスタディクーポンを届けることができました。

クーポンを利用した子どもたちの声をご紹介します。

去年の3月から学校が休校になり、受験を控えていたためとても不安でした。それでも通っていた塾でコロナ対策をしながら予習復習することができました。

クーポンを受け取った時はとても嬉しい気持ちになりました。そのぶん、少し気持ちが軽くなったように思います。

塾に通い始めたのは3年生になったばかりのときでした。そのときは、あまり受験生の自覚があまりなく、勉強にも身が入りませんでした。ですが、このクーポンをいただいたときに、「支援してくれる方」がいる、頑張ろう」という気持ちになりました。きちんと勉強と向き合うことができました。

初の受験で思ったことは受験は1人じゃないことです。学校の友達、親、学校の先生、塾の先生そして支援者の皆様のおかげで頑張ることができました。受験は1人で取り組むものではないと思いました。

高校受験に向けての塾代にあてさせてもらいました。気持ちの重さも落ちついてきて、勉強もはかどり、無事高校にも合格出来ました。

今年、私は受験生でした。もともと勉強が苦手だったので志望校に合格できるかととても心配でした。数学と理科が特に苦手な家で勉強していても分からない部分が多々ありました。そんな時、CFCクーポンを利用させていただけることになり、塾に通うようになってから、少しずつ塾で学んだ部分がかかりやすくなり、自分でもわかるようになって、失いかけていた勉強のやる気も前向きな気持ちになっていきました。

私たちのために、寄付をしていただき、ありがとうございました。今年度は受験があって急がしく、さらに、コロナもあり、とても不安な毎日でした。しかし、クーポンがあったおかげで、塾に通うことができ、一生懸命勉強に取り組むことができました。

クーポンを受け取った時は、とても嬉しい気持ちでいっぱいでした。私は将来心理系の仕事に就いて悩んでいる方を助けてあげたり、困っている人を心の面から楽にできる人になりたいと思っています。そのため今はクーポンを利用させていただいて、学習塾で勉強しています。

私は5歳の時父を亡くし、母と高校3年生の兄と3人家族ですが、共に受験生の為2人分の塾代で母に相当負担をかけていると感じたため、応募させて頂きました。

中学3年生になり学校の授業にはついていけず「受験」という大きな壁があることを実感しました。自分の志望校に合格するためにはやはり塾に通わなければいけなかったのですが、母の収入だけでは1年間塾に通うことは難しいと感じていたときこのクーポンを見つけました。このクーポンを利用することで塾に通うことができました。

私は、クーポンを使い、最初はもぐれをアタマにたプールがおよげるようになりました。クーポンが届いた時は、がんばろうという気持ちがいっぱいありました。

家族以外に私を支えてくれる見えない支援者の皆さまに、少しでも恩返しできるようにコツコツ勉強します。

私は今まで塾に通っていましたが今回のコロナウイルスの影響もあり金銭的に通い続けることが難しくなっていました。しかしクーポンを利用することで、これまでのように塾に通うことができ、通う塾の数を増やすことができました。

今年の春は私にとって大切な節目でした。高校に進学することは勿論ですが、東日本大震災から10年が経ちます。今思えば、にじんの引越えに転校。5歳に、私も15歳になりました。この10年間無事に楽しく毎日を送るには家族や周りの方々の協力、支えあってこそだと思っています。

クーポンのおかげで、塾に通い、受験に向けた勉強に取り組む事ができました。他にも、オンラインでの授業など、様々な事にクーポンを活用させて頂きました。このような支えのおかげで、私は第1志望の高校に合格する事ができました。本当にありがとうございました。

私はこれから4年制大学に進学します。地元で地域創生に関わる学問を学び、東日本大震災の被災地でもあり地元官城のまちづくりやコミュニティを創造する人になりたいと考えています。

私は今、将来看護師になるという夢を実現するために看護科に通っています。看護の勉強は覚えることが多く自分か思っていたよりも大変なことはわかりですが目標に向かって日々熱心に勉強に取り組んでいます。

この1年、ぼくはパソコン教室でAutoCAD(機械)を学びました。AutoCADユーザー資格試験にも合格することができました。

僕は、小学2年生の時からクーポンを利用し、大好きなピアノとお習字を習っていました。母子家庭の僕は、習い事を諦めていた時、母から「クーポンでピアノが習えるよ」と聞き、とても嬉しかったです。

クーポンだけでなく、iPadもありがたそうに思いました。コロナ禍で高校に行くことができず、情報集めのときに非常に役立ちました。また、塾の映像授業を見る際もiPadを使用した。大画面で画質も良く、交り率良く学習できました。

塾に通うことができ、家族の経済的にも上手にいくという確証のない塾へ通わせるほどの余裕がなかったのが塾へ通うことは諦めていたのですがこのクーポンを見て親に頼んでいたら私も塾へ通えるかもしれないと思いついた結果、塾へ通うことが出来ました。

昨年は、コロナがはやって、学校にいけないのに、いけない、勉強も不安でした。でもクーポンをつかってスマイルゼミができたのでとてもよかったです。(※スマイルゼミは通信教育です)

さて、このたびCFCクーポンを利用し、塾に通うことができました。塾に通えたおかげで毎日勉強する週間が身につく、成績を伸ばせました。また、電話面談では親身に聞いてもらい悩みを話すことで苦しい受験期を乗り越えることができました。

私の家は私が小さい頃から母子家庭であり裕福ではなく塾に通う余裕がありませんでした。そんな中、このCFCクーポンが当たったおかげで、塾に通えるようになりました。私は通信制の高校に通っていたため高校での勉強は殆ど独学でした。なのでこのクーポンのおかげで塾に通えるようになったのがとても嬉しかったです。

このクーポンに応募した理由は、家族母子家庭で母に負担をかけずに勉強を頑張りたいからです。クーポンのおかげでその願いを叶えることが出来ています。余計な事も、見ないこともない私に支援していただき、本当にありがとうございました。みなさんのおかげで自分の夢に一つずつ近づいていっています。

Report レポート 新型コロナ緊急支援事業



【写真左】2020年度・2021年度合わせて、受験生672名にスタディクーポンを届けることができました。【写真右】仙台・東京で合計90名の大学生ボランティアが、子どもたちの相談支援を行いました。

1 2020年度は157名にクーポンを提供

2020年度は、これまで継続的に行ってきた東北・関西での支援事業に加え、臨時で新型コロナ緊急支援事業を立ち上げ、コロナ禍で困難な状況にある経済困窮世帯の子ども157名に総額1,570万円分のスタディクーポンを提供しました。本事業は、新たに募った寄付金を原資とし、当

初、特に感染拡大していた東京都を中心に、支援の緊急度が高い受験生を対象に実施しました。また、仙台に加えて、新たに東京都内でも、子どもたちと定期的な面談を行う大学生ボランティアの募集・育成を行い、仙台と東京合計で90名が活動に参加しました。

2 事業のオンライン対応強化を実施

臨時のスタディクーポン提供に加え、事業のオンライン対応強化を行いました。大学生ボランティアと子どもたちの面談をオンラインで対応可能にしました。加えて、2020年4月に実施したアンケート調査では、休校中にオンライン教育を活用できなかった子どもたちが多くいたため、自宅の通信環境に課題がある家庭には、タブレットやWi-Fiルーター計52台を無償貸与しました。クーポン利用後に行った子どもたちへのアンケート調査では、88.2%が「希望していた進路に進むことができた」と回答しました。

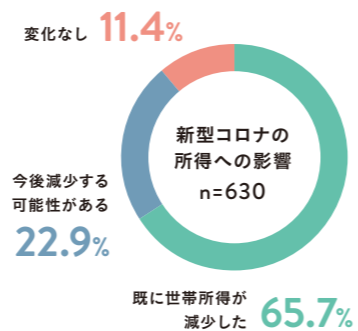
保護者の声

「塾を辞めさせるかどうか本当に悩んでいた、辞めたくない息子の要望を叶えられ、更に英語を増やしたことで成績が上がりました」

「タブレットは学校で支給されたが、Wi-Fiがなく、(CFCからの貸与がなければ)オンライン授業を受けることができないところでした」

3 長期化するコロナ禍 2021年度も新型コロナ緊急支援事業を継続・拡大します

二度目の緊急事態宣言下(2021年2月頃)でCFCに応募した経済困窮世帯630名が回答したアンケート調査では、約9割がコロナ禍で所得減少(見込含)と回答し、更に逼迫する家計状況が分かりました。また「休校明けから不登校になった」「教育費節約が子どもの進路を狭めないか心配」等、不安な声が多く届いています。この状況を踏まえ、新型コロナ緊急支援事業は2021年度も継続します。コロナ禍での経済困窮世帯の子どもをより重点支援すべく、2021年4月に対象を東京圏・関西・東北に拡大し、受験生515名に総額7,725万円分のスタディクーポンを提供しました。今後もCFCは、全力で子どもたちをサポートします。皆さまには、引き続き温かいご支援をお願いします。



Activity Report 2020年度のCFCの活動実績(2020.4-2021.3)

CFCのスタディクーポン事業

事業名	CFC東日本	CFC西日本	新型コロナ緊急支援	合計
事業内容	 東日本大震災で被災した経済困窮世帯の子どもへのスタディクーポン提供	 関西の経済困窮世帯の子どもへのスタディクーポン提供	 新型コロナウイルスの影響を受けた経済困窮世帯の子どもへのスタディクーポン提供	
対象者	東日本大震災で被災した経済困窮世帯の小学生から高校生(所得制限あり)	関西地域に居住する生活保護受給世帯の小学生から高校生	新型コロナウイルスによる経済的影響を受けた世帯の中学3年生、高校3年生(所得制限あり)	
クーポン利用期間	2020年4月1日～2021年3月31日		2020年9月1日～2021年3月31日	
クーポン給付額	8,194万円 1人当たり:小学生15万円、中学1・2年生および高校1・2年生20万円、中学3年生および高校3年生30万円	835万円	1,570万円 1人当たり:10万円	1億599万円
クーポン利用者数	399名 小学生122名、中学生155名、高校生119名、高校卒業生(浪人生等)3名	40名 小学生13名、中学生12名、高校生15名	157名 中学3年生156名、高校3年生1名	596名 小学生135名、中学生323名、高校生135名、高校卒業生(浪人生等)3名
クーポン利用率 ^{※1}	83.8%	83.1%	88.9%	84.5%
クーポン利用先数	901教室	241教室	570教室	1,712教室
面談回数	1,606回	174回	186回	1,966回
進路実績 ^{※2}	高校進学率 98.5%(66名/67名) 大学等進学・正規雇用就職率 78.8%(26名/33名) 希望進路達成率 ^{※3} 90.0%(81名/90名)	100.0%(9名/9名) 100.0%(1名/1名) 80.0%(8名/10名)	98.3%(117名/119名) 0%(0名/1名) 88.2%(105名/119名)	98.5%(192名/195名) 77.1%(27名/35名) 88.6%(194名/219名)
審査基準	新規 ^{※4} :世帯所得状況、学年 継続:世帯所得状況、当該年度のクーポン利用状況	新規:生活保護受給状況、学年 継続:生活保護受給状況、当該年度のクーポン利用状況	新規:世帯所得状況、新型コロナウィルスの影響	

【※1】クーポン利用率は利用額/給付額。利用されなかったクーポンは次年度以降のクーポン費として充当される。【※2】アンケート回収率は、CFC東日本91.7%、CFC西日本100.0%、新型コロナ緊急支援76.4%。【※3】希望進路達成率は、進学者および就職者にのみアンケートを実施。なお、無回答者は分母に含まない。【※4】随時支援枠と不登校生徒支援枠については、指定機関(自治体・支援団体等)より推薦・紹介を受けた生活困窮者より申込を受け、先着順で利用者を決定。

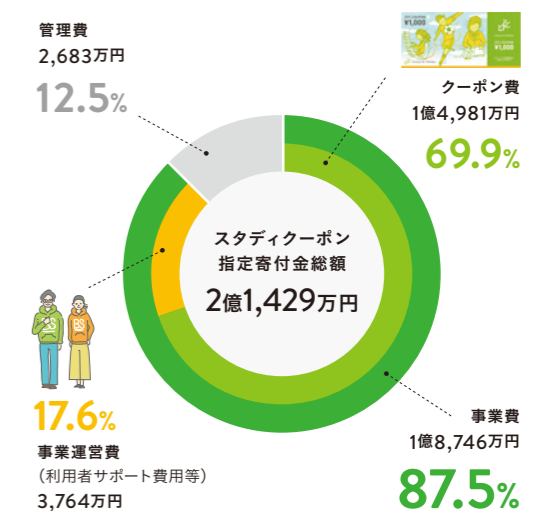
Plans | 2021 2021年度の計画(2020年度にいただいた寄付金の使途)

2021年度は855名の子どもたちを支えます。

2020年度寄付金の87.5%にあたる1億8,746万円を事業費として使用します。このうち、1億4,981万円をスタディクーポンに充当し、2021年度は855名の子どもたちを支える計画です。残りの3,764万円は、事業運営費として使用します。事業運営費の内訳は、クーポン利用者募集審査、利用者のサポート(コーディネーターによる相談支援、大学生ボランティア育成や定期面談)、教育事業者の募集審査、効果検証などの費用です。

スタディクーポン指定寄付金・会費使途に関するお約束

- 1 寄付金の85%[※]以上を子どもへの直接的な支援費として使用
※65%以上をスタディクーポン費、残り20%程度を事業運営費に充当。
- 2 寄付金の15%未満を法人の管理費[※]として使用
※子どもたちを間接的に支えるための費用。管理を行う職員の人件費、広報費等。































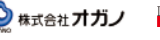






ご支援いただいた皆さま

2020年度は延べ2,890名以上の個人の皆さま、108社の企業・団体の皆さまからご寄付をいただきました。温かいご支援、本当にありがとうございました。



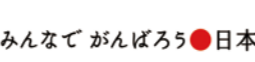

企業・団体支援者

※スペースの関係で、一定額以上のご寄付をいただいた方のみを掲載しています。また、匿名希望者は掲載していません。※敬称略

 三菱UFJフィナンシャル・グループ <small>株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ</small>	 STARBUCKS® <small>スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社</small>	 POKÉMON with YOU <small>ポケモン は いつも キミと いっしょ</small> <small>株式会社エムアイ友の会</small>	 みてね 基金 <small>みてね基金</small>		
 HARRY WINSTON <small>ハリー・ウィンストン・ジャパン株式会社</small>	 CBGM <small>CBグループマネジメント株式会社</small>	 PERMIRA FOUNDATION <small>ベルミラ財団</small>			
 <small>三菱地所コミュニティ株式会社 従業員皆さま</small>	 <small>Yahoo! ネット募金</small>	 <small>一般財団法人凸版印刷三幸会</small>	 <small>株式会社エムアイ友の会</small>	 <small>株式会社ファミリーマート</small>	 <small>ソフトバンク株式会社</small>
 <small>株式会社博報堂アイ・スタジオ</small>	 <small>日本航空株式会社</small>	 <small>株式会社 VOYAGE MARKETING</small>	 <small>株式会社 ビックルスコーポレーション</small>	 <small>SMBCグループコロナ対策支援寄付プログラム</small>	
 <small>楽天グループ株式会社</small>	 <small>株式会社Tumugu</small>	 <small>株式会社アトラス</small>	 <small>東芝テック株式会社 / 東芝テック社会貢献基金</small>	 <small>Pillsbury Winthrop Shaw Pittman Foundation</small>	 <small>CKD株式会社</small>
 <small>Almac Group</small>	 <small>花王ハートポケット倶楽部 / 花王株式会社</small>	 <small>株式会社アックス・メアリー</small>	 <small>三井化学株式会社 / 三井化学ちびっとワンコイン</small>	 <small>MASHING UP (株式会社メディアジーン)</small>	 <small>クリフォードチャンス法律事務所 外国法共同事業</small>
 <small>株式会社オガノ</small>	 <small>ダイナメディックジャパン株式会社</small>	 <small>ベスト個別学院</small>	 <small>株式会社イーライフ</small>	 <small>インヴェンティット株式会社</small>	

株式会社栄光 / エースユニテッド株式会社 / 株式会社エデュケーションジェムズ英会話 / 株式会社極東商会 / 株式会社公文教育研究会 / 株式会社クリエイティブ・コンサルタント / 国際ソロプチミスト神戸東 / 株式会社セールスフォース・ドットコム / ソレイユインターナショナルスクール / 大日本印刷株式会社 / 株式会社DNPファシリティサービス / 時計専門店クォーク / 株式会社パリュールブックス / 株式会社BE PROUD / 株式会社ビルダリッジ / 株式会社ファンケル / ファンケルもって何かできるはず募金 / ブルーオーシャンキャピタルLLC / ベイン・アンド・カンパニー・ジャパン・インコーポレイテッド / 株式会社LIFEST JAPAN / 株式会社リミックスポイント / 株式会社理由 / YNF合同会社

助成団体

 <small>公益社団法人ハタチ基金</small>	 <small>日本ベンチャーフィランソロビー基金</small>	 <small>公益財団法人 東日本大震災復興支援財団</small>	 <small>公益財団法人パブリックリソース財団</small>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

財務・会計報告

正味財産増減計算書の要旨 (2020年4月1日から2021年3月31日まで)

	科目	金額(円)
一般正味財産増減の部	1 受託事業収益	55,035,234
	2 受取入金・会費	1,670,000
	3 受取寄付金等振替額(指定正味財産からの振替額)	166,955,837
	4 雑収益	555,836
	収益計	224,216,907
	1 事業費	195,784,661
	CFCスタディクーポン事業費(自主事業)	144,858,968
	自治体等協働事業費(受託事業)	50,925,693
	2 管理費	25,967,817
	費用計	221,752,478
当期経常増減額	2,464,429	
法人税等	179,400	
当期一般正味財産増減額	2,285,029	
一般正味財産期首残高	9,091,963	
一般正味財産期末残高	11,376,992	
指定正味財産増減の部	1 受取賛助会費	47,382,000
	2 受取寄付金	166,908,288
	3 受取補助金等	45,499,040
	4 受取補助金等返還	▲792,140
	5 一般正味財産への振替額	▲166,955,837
	当期指定正味財産増減額	92,041,351
指定正味財産期首残高	167,882,280	
指定正味財産期末残高	259,923,631	
正味財産期末残高	271,300,623	

貸借対照表の要旨 (2021年3月31日現在)

	科目	金額(円)
資産の部	1 流動資産	28,893,174
	普通預金	3,456,366
	未収入金等	25,436,808
	2 固定資産	264,398,631
	特定資産	259,923,631
その他固定資産	4,475,000	
資産の部合計	293,291,805	
負債の部	1 流動負債	21,991,182
	未払金等	21,991,182
	負債の部合計	21,991,182
正味財産の部	1 一般正味財産	11,376,992
	(うち当期一般正味財産増減額)	2,285,029
	2 指定正味財産	259,923,631
	(うち当期指定正味財産増減額)	92,041,351
	正味財産の部合計	271,300,623
負債及び正味財産合計	293,291,805	

貸借対照表、正味財産増減計算書(損益計算書)及び財産目録は、法令及び定款に従い、法人の財産及び損益の状況を適正に表示しているものと認めます。

監事 藤井美明 監事 保木祥史

詳細は、WEBサイトで公開している財務諸表(PDF)をご覧ください。

<https://cfc.or.jp/about/finance/>

ご支援のお願い

継続的なご支援「CFCサポート会員」

毎月1,000円~のご寄付で、子どもたちを支える方法です。

CFCサポート会員は下記のWEBサイトからクレジットカードもしくは口座からの自動引落でお申し込みいただけます。

    	
<input type="text" value="CFC 寄付"/> <input type="button" value="検索"/>	

<https://cfc.or.jp/support/>

※サポート会費は、スタディクーポン事業指定寄付金となります。

今回のみのご支援

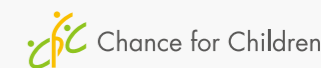
ご都合の良いときに、任意の金額をご寄付いただけます。

金融機関 三井住友銀行 亀戸支店(支店コード:254)
 銀行口座 口座番号 普通 7862751
 口座名義 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

ゆうちょ銀行 記号・番号 00160-6-265327
 (郵便振替) 口座名義 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

※クレジットカードのご寄付は左記WEBサイトから受け付けております。※CFC東日本・CFC西日本などプロジェクトを選択して寄付をしたい場合は、プロジェクト名を通信欄に記載していただくか、チャンス・フォー・チルドレン事務局までご連絡ください。※銀行口座へのお振込みの方で、領収書が必要な方はチャンス・フォー・チルドレン事務局までご連絡ください。

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン



仙台事務局 宮城県仙台市青葉区本町1丁目13-24 錦ビル7階
 東京事務局 東京都江東区亀戸6丁目56-17 稲富ビル3階
 関西事務局 兵庫県西宮市甲風園1丁目3-12 カミヤビル3階

TEL: 03-3681-2258(代表) / E-mail: info@cfc.or.jp

CFC 子ども <https://cfc.or.jp/>  